

環境大臣賞

命と命のつながり

八戸市立大館中学校 三年

水石 萌菜 みずいし もな

私の母は四月から情緒学級を担当しています。生まれて初めて担当する情緒障害の子どもたちとの毎日は緊張の連続だったようで、日々ストレスがたまっているように見えました。特に、中学二年生のゆうちゃんは、他の人と全くコミュニケーションをとることができません。人間嫌いで、人間不信。

「人間なんて信じない。自分も嫌い、先生も嫌い。みんな大っ嫌い。」

と言って母を困らせます。何度か暴れて、母がケガをして帰ってくることもありました。疲れきっている母を何とか助けたくて、私は動物福祉協会オリジナルのカレンダーをプレゼントしました。本当は私の大切な宝物だったけれども、動物好きの母になんとか元気を出してもらいたくてプレゼントしました。カレンダーについているたくさんの動物たちの写真を見て、ニッコリ笑顔の母は言いました。

「ありがとう。みーんなかわいくて、いやされるよ。」

職場に持って行って、つらいことがある度に動物の写真を見ていると、ゆうちゃんもカレンダーの写真に興味を持ちはじめたのだそうです。そして、動物たちに笑いかけているんだよと母はうれしそうに話してくれました。

「教室で動物を飼ってみれば？」

私の提案で、母はすぐに行動を開始しました。ゆうちゃんの希望で、ハムスターを飼うことになり、ハムスターの飼い方調査が始まりました。調べたことをノートにまとめていきます。ゆうちゃんの情緒が不安定で暴れるとき、近くのペットショップに連れていくと、表情が穏やかになるのだそうです。動物に囲まれ、動物のおいをかぎ、動物の動きを見ているうちに、笑顔をとりもどすそうです。

「ゆうちゃんに必要なのは、純粋な動物の命の温かさなのかもしれないね。」

と母は言っていました。

準備段階で、思うようにいかずトラブルを起こすこともあります。

「命は、自分勝手な気持ちでふりまわしてはいけない。」

「人の命も動物の命も同じ。」

「動物の気持ちに寄り添うように人にも寄り添ってみようね。」

母は毎日語り続けます。そしていよいよハムスターデビューです。名前は、私の姉が提案した「モン」と「ブラン」に決定しました。平日は、教室でゆうちゃんがお世話をします。そして週末は、母が家に連れてくるので、私がお世話当番です。初めて、モンとブランを見たとき

「かわいっ。でも小さいんだねえ。」

と言いながら、目を離せませんでした。ちょこちょこ動きまわる様子が危なっかしくて、でも愛らしくて、本当にいやされます。エサをあげるときに手を差し出すと、私の手の上にひょこっと乗ってきます。安心しきっている顔を見て、普段のゆうちゃんが愛情をもってお世話していることが想像できます。ハムスターを通して、会ったことのないゆうちゃんに、友情を感じ始めていました。ゆうちゃんからもらったお手紙には「いつもモンとブランをかわいがってくれてありがとう。私の大事なモンとブランを、私と同じくらい大事にしてくれていることがとってもうれしいです。本当にありがとう」と書いてありました。私も「いっしょに大切に育てようね」と返事を書きました。ゆうちゃんが、

「私の気持ちとハムスターの気持ちと、先生の気持ち。気持ちはいっぱいあるんだね。」

と言うようになったことを母はとても喜んでいます。それぞれの気持ちと命が寄り添って、支え合って生活できることは素晴らしいことです。私はあらためて動物の存在のすばらしさを感じました。そしてアニマルセラピーの仕事が夢のひとつになりました。命を救えるのは「命」と強く思います。